

～保護者の皆さまと
学科をつなぐ
ほっとライン～

しまなみだより



Department of Nursing

第4号 2015年4月発行

～2015年新学年が始まりました～

春暖の候、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。平素より本学の教育にご理解とご協力を頂きありがとうございます。3月には卒業生61名を送り出し、4月には編入生1名を含む、62名の新入生を迎えることができました。

さて、本学は文部科学省平成26年度「大学教育再生加速プログラム」に採択され、アクティブ・ラーニングの推進に取り組んでおります。今年度も、学生の学修意欲を喚起し、主体性を育む教育の充実に取り組んでいきますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

看護学科広報係



三原キャンパスの階段下の桜の写真、満開です。

2014年10月にインドネシア教育大学から留学生をむかえました



三原市チャンネル「市民いきいき健康広場」

2014年12月放送 本学公式 Youtube より抜粋。

<https://www.youtube.com/watch?v=bH5HiE9dzH0>

看護学科では10月にインドネシア教育大学から2名の留学生を迎えました。1人はデウイ ラマダンティさんです。水泳が趣味の19歳の女性です。もう1人はフィンディ フィンディア アングレニさんです。絵を描くことが好きな20歳の女性です。

ふたりとも日本語を勉強しているため、日常会話にはあまり困っていない様子で、1、2年生のクラスに入り、熱心に学修しています。ですが、やはり日本語の授業を理解することは難しい様子。学生たちは留学生をサポートする役割をもつ「バディ」を中心に、自然な雰囲気ですぐに授業のフォローなどしています。また、12月には、バディの1年生が中心となり、クリスマス交流会を開催し、ゲームや歓談を通して交流を深めました。このような国際交流の機会が、それぞれの学生の「多様な価値観」を理解する土台づくりに役立っていくことを願っています。

(土路生明美)



留学生交流会の様子です。

平成26年度後期 実習・講義

2年生

2年生は、2月中旬から3月上旬にかけて、基礎看護実習Ⅱを行いました。この実習では、初めて患者さんを受け持ちました。実習開始時は、血圧測定も緊張しながらの実施でしたが、日を追うごとに、患者さんとの関係が築かれ、寄り添おうとする姿を見ることができました。実習終盤には、自分たちが立案した看護計画に沿って、実践し、患者さんに適した看護を考えていくことができました。清拭や足浴を行い「気持ちがいい」「ありがとう」といった言葉をいただくことにより喜びも生まれ、病態に即した根拠ある、安全・安心な看護ケアを提供する必要性を実感できたようです。3年生ではより専門的な講義や演習、実習となりますが、今回の実習で学んだことを発展させてもらいたいと思います。(三宅由希子)



基礎看護実習Ⅱを終了後の様子です。無事に終わりました！

3年生

3年後期から始まる専門科目(急性期・慢性期看護, 老年看護, 母性看護)実習は、看護学生にとっては大変でもあります。しかし、看護職に就く将来の自分を真剣に考えていくことのできるとても充実した時期だと捉えています。

私が担当している慢性期看護実習では、慢性・長期的な疾患をもつ患者様を受持ち、患者様が自己対処能力を最大限に発揮し生活を再構築できるようサポートしていきます。学生たちは、患者様が現在までどのように病気と向き合われてきたのか、これからは(も)、どのように病気と向き合っていきたいのかを伺いながら、患者様主体の支援の内容を模索していきます。この過程の中で、患者様と学生の間には『患者-看護者のパートナーシップ』という互いに尊重し高め合おうとする良い関係が築かれていきます。その際、学生からは、「真剣に患者様の事を考え悩み行った支援が、患者様に受け入れられ自発的に実践して下さるようになった時には本当に看護が楽しいと思った。」という声が聴けます。この時が、教員としては至福の時です。今年も多くの学生からこの声を聴くことができ、看護の楽しさを追求できる仲間が増えたと心が躍っています。

1月から母性看護実習が始まっています。実習を重ねてさらに看護の楽しさを感じてほしいです。(船橋眞子)



母性看護実習 沐浴の演習をしている様子です。

病棟で実習指導をしてくださっている卒業生からもメッセージをいただきました！

助産師として就職し、今年で4年目となりました。最初は初めての業務ばかりでスムーズにケアを行えず、産婦さんともうまくコミュニケーションがとれず戸惑うばかりでした。しかし、どうすればうまくいくか一緒に考えて下さる先輩方からのサポートや、同期の存在に支えられ、ここまで続けることができました。無事に出産を終えた産婦さんから『そばにいてくれてよかった』と言われることや、産婦さんと赤ちゃんが親子の絆をつないでいく姿を見られることが、今の私の大きな励みとなっています。

大学生活は、実習・勉強・サークルなど、忙しかったと今でも思います。でも、大学で一生懸命学んだこと・産婦さんや先輩助産師さんとの出会いを通して感じたことが、今の私の仕事の基礎を作ってくれていると改めて感じています。大学生活は忙しいと思いますが、様々な方との出会いや実習などでの経験を通して、自分の理想とする看護師・保健師・助産師像を目指して頑張ってください。

平成22年度卒業 中電病院看護科産婦人科病棟 三宅菜摘助産師より

大学祭（浮城祭）



2年生は一致団結し、よさこいダンスを踊りました

11月8日、9日に三原キャンパス大学祭「20回浮城祭」が「県大、祭だい、夢限大」というテーマで開催されました。各学年、ぜんざいやワッフルなどの店を出店したり、ステージではダンスや劇などを披露したりと大学祭を盛り上げてくれました。学生たちは数ヶ月前から空いた時間を活用し、ダンスの練習をするなど準備を重ねてきました。そのため、当日のいきいきとした姿や大学祭後の達成感のある笑顔を見ると、私も心があたたかくなりました。御来場いただいた保護者の皆さまありがとうございました。今年は大学祭前に4年生がPR動画を作成しました。Youtubeをぜひご覧ください。
<https://www.youtube.com/watch?v=z69qx0SJ8LE> (鴨下加代)

卒業研究



平成26年度看護学科卒業研究発表会を開催しました！
卒業研究発表会が終わり、4年生全員で撮影しました

看護においては、これまで以上に科学的根拠（理論）に基づく看護介入の重要性が強調されるようになりました。看護教育の場では、看護介入の理論を構築し、進歩させようと、看護研究に取り組んでいます。例年、最終学年生（4年次生）は、卒業研究を通して、その看護研究の第一歩を踏むこととなります。研究初心者とはいえ、学生たちは担当教員の指導下で研究計画書を立案し、調査や実験などの方法を用いてデータ収集を行い、分析結果をまとめ、論文を完成させます。そして、学会発表さながらのプレゼンテーションに緊張した面持ちで臨みます。この研究過程を通して学生は、自分で考え、論理的に表現する力を身に付けることができます。こうした力は、看護介入の理論構築に貢献できる基礎的な研究能力となり、看護の学習経験の集大成ともいえます。学生のなかには卒業研究を看護系の学会で発表する者も見受けられ、成長した彼らの姿は微笑ましく、また見違えるほどに立派です。 (今井多樹子)



教員の紹介 学科の名物教員をご紹介します！

老年看護学を担当している、山中道代です。私は旅行が好きなので、旅先で感じたことを綴ろうと思います。旅先に世界遺産があれば、たいいてい訪れます。思い出に残っている場所の一つは、フランスのモンサン・ミシェルです。今でこそ多くの人を魅了する歴史的建造物として名を馳せていますが、その歴史は小さな丘にミカエルのお告げで修道院を建てたことから始まったそうです。凸凹した外観を見て、「内側はどうなっているのだろう」と思っていました。入り組んだ迷路のような感じでした。長い年月をかけて徐々に増築されたことによる内部構造の複雑さが、その外観に現れていました。修道院ではありますが、城塞として負の役割を果たしたこともあったようです。はじめは小さな一歩でも、困難に直面しようとも、重ねた歴史が思わぬ味を出し、結果として多くの人を感動させる存在になる・・・これは人にも当てはまるのかなと思います。本学に入学してきた学生さんは、できたばかりの修道院ですね。これから、いろいろな喜びや苦勞を重ねて社会人へと成長していきます。私はその手助けをしているに過ぎませんが、毎年立派に成長した四年生を送り出すことを楽しみに感じています。



山中道代准教授



建設当初のモンサン・ミシェル



現在のモンサン・ミシェル

学生さん いらっしゃ〜い!

学生生活1年目を振り返り、一番の思い出は、やはり大学祭です。クラス全員でお揃いのパーカーを作り、「ぜんざい」の出店をしました。材料の調達など、大変なこともありました。クラスの団結が一層深まりました。私の学年は男子学生6名ですが、6名の仲間と出会えたこと、そして、明るく楽しい(キャラの濃い?!)看護学科の女性陣と出会えたことは、私の宝です。

後期には初めての病院実習があり、実際の看護援助を見学しました。また、患者さんから、健康障害によって生じた社会生活の変化、気持ちの変化など、貴重なお話を聞かせていただきました。患者さんから学ばせてもらったことは、看護を学んでいく自分への「糧」となっています。

2年生の目標は、看護の知識を身につけることはもちろんのこと、彼女を作ってドキドキなハッピーライフを過ごすことです♥これからもよろしくをお願いします。



1年生津村直輝さん
基礎実習室で白衣姿で撮影



大学祭でそろいの赤いパーカーを作成し
1年生で記念撮影

〜卒業生 頑張っています!〜



平成16年度卒業生
齋藤篤子さん
倉敷中央病院心臓病センター
看護師

私は大学を卒業し、看護師として心臓血管外科の集中治療室で勤務して10年目になります。臨床では新人看護師の教育に携わり、教育的な関わりに悩むこともありました。日々実践している看護について丁寧に振り返る機会として上司からの勧めもあり、広島県看護教員養成講習会専任教員養成コースを受講しました。講習会では、あらためて「看護とは何か」を他の受講生と深く考えることで、看護師としての自分自身を見つめ直すとても貴重な機会となりました。また、教育的な関わりとは何かを考え、学ぶことができました。今後も成長し続けていけるよう講習会での学びを活かしていきたいと思っています。

本学では、広島県からの委託により平成20年度から「広島県看護教員養成講習会 専任教員養成コース」を開講しています。この講習会は、看護師等養成所の専任教員を養成する目的で、9ヶ月間、専任教員に必要な基礎的な知識・技術・態度を学ぶ内容になっています。



看護学科「学生生活通信」について ご意見、ご感想などお寄せ下さい。
〒723-0053 広島県三原市学園町1-1 TEL 0848-60-1120 (代表)
FAX: 0848-60-1134 (代表) E-mail: nskouhou@pu-hiroshima.ac.jp
発行: 県立広島大学保健福祉学部看護学科 広報係



県立広島大学
Prefectural University of Hiroshima